

自然教室だより

辻本信一

1月・冬のならやま自然観察会報告

平成29年1月11日(水)今年初めての自然観察会をならやまベースキャンプにて実施いたしました。題して「冬のならやま自然観察会」。寒空の下、それでも14名の方にご参加いただきました。

3回目となる今回のならやまでの自然観察会のテーマは、「冬の厳しさに耐え春に備える植物の健気な姿を自分たちの目で確かめ、みんなでその感動を分かちあおう」という事で、午前中は畑周りの

草本を中心に観察を行い、午後からは里山林に足を運び、木本中心にこの時期の冬芽を観察しました。



【参加者の皆さん】

まず私達を迎えてくれたのは、先日の七草粥でいただいた「春の七草」の代表、「ナズナ」と「ハコベ」。これらの植物は寒い冬をすこしも嫌がらず、開花準備を整え、春一番乗りを競うように青々とした姿で元気いっぱいにご経過しています。

また、冬の寒さや風雪に耐え、少しでも太陽の光を受け止めようとバラの花の様な形をしたこんせいよう根生葉「ロゼット」を鑑賞できるのもこの季節です。



【畑周辺での野草観察】

日当たり良く、栄養も十分な畑の周りは野草の宝庫。この日出会った植物(草本)は、

イモカタバミ(地中の鱗茎観察)、ミドリハコベ、コハコベ(茎に少し赤みを帯びる)、ウシハコベ(葉がしっとりとした感じ)、ナズナ、タネツケバナ、

アメリカフウロ(紅葉が美しい)、オオイヌノフグリ(可哀そうな名前、でもきれいな可愛い花)、ホトケノザ(閉鎖花にも注目)、セリ(ドクゼリとの違いは肥大した根茎が無い)、チチコグサモドキ、コオニタビラコ、等々。

午後、冬芽観察第1号は亀甲模様も鮮やかなザイフリボク、芽鱗の間からは白い綿毛が覗きます。

続いて、赤く色づくネジキの冬芽。コクサギを含めこれら3木の冬芽は三大美芽と称されています。



【ならやま里山林での冬芽観察】

他にも両手に小さなグローブを構えたようなクロモジの冬芽にも皆さんの目は釘付け。「かわいい」「かわいい」の声が上がりました。他にも赤い実をつけるもの、常緑樹や独特の木肌で存在感を示すものなど、次のような植物を観察しました。

アカメガシワ(冬芽の姿でしっかりと十字対生も確認出来ました)、カマツカ(葉を落としても赤い実だけが残っていました)、カナメモチ(若葉は赤色を帯びベニカナメかも?)、タカノツメ(冬芽の形は文字通り)、マンリョウ・センリョウ(どちらもきれいな赤い実をいっぱいつけていました)、ヒサカキ・サカキ(葉に鋸歯が有る無しで違いを観察)アセビ(ネジキと似るが常緑)、シャシャンボ(こちらこちらも常緑で葉の裏には主脈に小さな突起)、クロバイ、等々。



【本日の振り返り】

最後の振り返りでは、「今回来られなかった会員の皆様にも紹介したい」「自然観察は楽しい、これからも続けて参加したい」の有難いお声。

是非、次回は皆様もご参加ください。